

未定稿

※第2回委員会までの意見で整理

平成25年度淀川水系流域委員会
第3回専門家委員会
資料-4

平成25年度 淀川水系流域委員会【専門家委員会】 淀川水系河川整備計画に基づく事業等の進捗点検に関する 報告書に対する主な意見

淀川水系河川整備計画について、危機管理・治水・人と川とのつながり・河川環境・利水・利用・維持管理の各分野において、平成24年度の進捗状況について、点検を行った。主な意見は以下のとおり

◎進捗点検の方法や指標に関する主な意見

◆危機管理分野

- ・避難訓練などのフィールドワークは、訓練をすることで防災意識が高まるので、そのような観点も今後検討していくべきではないか。
- ・災害が頻発していないようなところでこそ災害意識が高まる事が大切であるため、そういうところでの防災意識の向上の取り組みも進捗点検にいられていただきたい。
- ・水害協における関係自治体との連携内容については、専門知識の提供、普及啓発等の具体策を記載していただきたい。
- ・自治体との連携においては、実効性のあるものにするために努力が必要で、評価にあたって、改善点を明確化したり、自治体に任せるときの明確化など、メリハリを付けていくようなことも大事である。
- ・流域全体の総数で評価しているものについては、河川ごとの取り組み状況が把握できるようにお願いしたい。

◆治水

- ・高規格堤防に関して、区間設定の考え方を可能な形で示せないか。

◆人と川とのつながり

- ・河川レンジャーは人数だけでなく、メンバーの更新など構成の多様化も評価に値する
- ・河川管理者が発信した情報が、どう受信され、どう利用されたかということ把握することも重要である。
- ・人と川とのつながりが、環境、治水、利用に関してどのような貢献があったのかを見る

ために、実施したイベントを主要テーマ毎に類型分けし、イベントの内訳が見えるようなまとめ方をすることで、各指標を連携して評価する上で役立つのではないかと。

◆河川環境

・ T-Pで南湖ではS54年度以降減少傾向との評価や、CODの南湖での評価について、評価の記述内容について確認していただきたい。

・ 保全利用委員会の中で、いかに川らしい自然環境の保全・再生に向けた審議がなされたかを評価してはどうか。

・ アユモドキの生息環境の評価は、既往の分析も踏まえた評価をしていくべき。また、24年度に事業として特に実施していなかった場合でも、環境のことについては、過年度の事業でどうだったかということよりも、過去から積み重ねてきた対策の効果が現状どうであるかという視点で評価する必要がある。

・ H25年度分の点検では、台風18号前後の状況を比較することにより、H24年度に実施した取組に対する評価が可能となる。

◆全体

・ 進捗のないものについては、進捗を図るための助言をする必要がある。

・ 進捗点検結果は、広く一般に広報する工夫をしていただきたい。

◎事業実施に関する主な意見

◆危機管理分野

・ アンケート調査はモニタリングの一種であり、アンケートを実施するだけでなくそのデータを分析していくことが大事。

・ 点検・対策を進めるにあたり、治水や環境等の各視点で相乗効果があるものもあり、施策を相互に活かせば、より効果が上がる。

◆治水

・ 土砂対策については、モニタリング結果を用いて総合土砂管理計画を立案していくことが必要であり、総合土砂管理委員会で議論すべき事項であると考えている。

◆人と川とのつながり

・ 漁協の組合員は毎日のように川に出ておられ、川の状況に精通されているので、川と人とのつながりを充実するために、河川レンジャーの活動やイベント時に一般の団体と同じように声をかけるなど連携を強化してはどうか。

・河川レンジャーについて、各事務所での課題等の情報は、水系内全体で情報共有することは有用ではないか。

・河川施設を公開するというのはとても大事なこと。工事現場等をなるべく多くの方に見ていただくような仕組みを積極的に作るということは大事だと思う。

◆河川環境

・外来種対策は、陸域や府県管理の支川と一体的にやらないと効果的な事業にはなりにくいため、府県との協働体制が出来ているかという観点が必要である。

・ヨシ帯の再生事例で、資料の写真は株状のヨシに見えるが、株状であるなら、在来魚の産卵場所としては好ましくないと言われていて、景観的にも問題であるので南湖や北湖の一部で問題視されている。面積だけの評価ではなく、質の評価も検討いただきたい。

・「既設ダムにおける弾力的運用等の検討内容・魚類確認数」の指標において、直接的な評価項目ではないが、例えば河道内工事による変化も土砂の移動という観点では同じ評価をなしえるといえる。

・砂防施設による土砂移動の制御に関しては、出水で土砂が出てきた場合に必要性が高まったりするため、現状での評価にそれらを加えていく必要がある。